

特集 視聴者の様々な“見たい”を届けるJVCケンウッドのマルチアングルサービス「yourLIVE」

PR

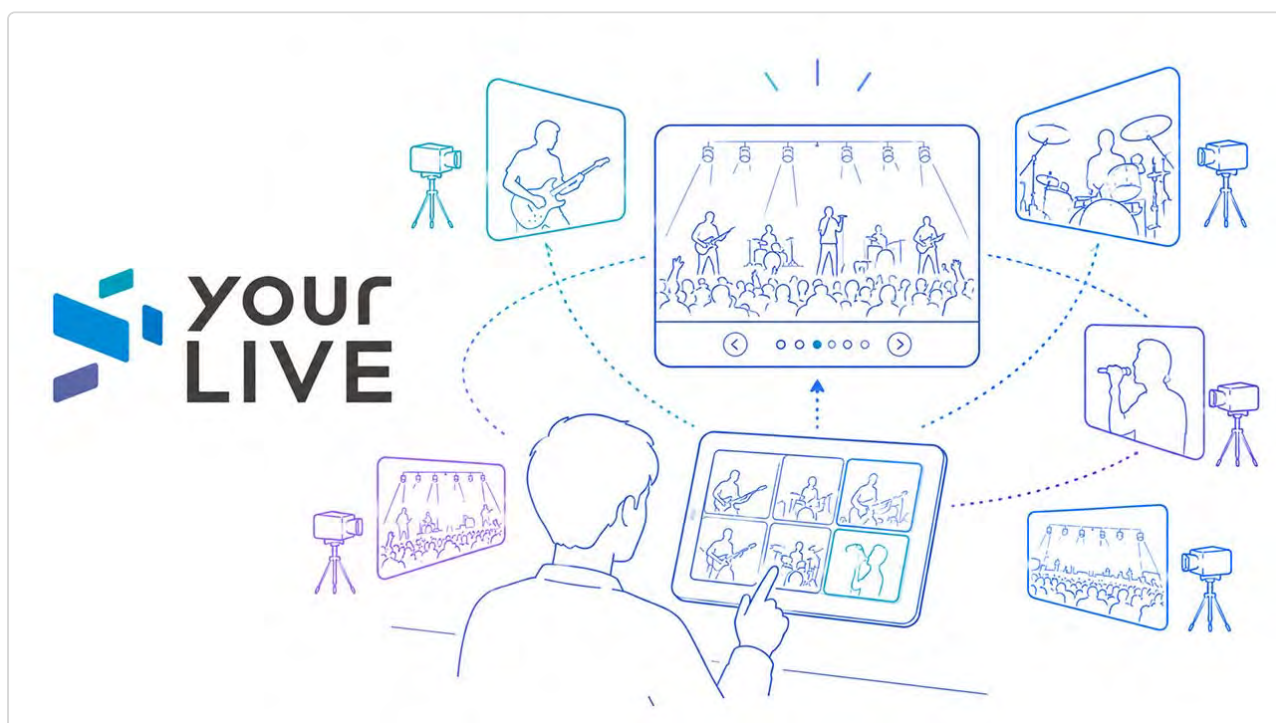
視聴者の様々な“見たい”を届けるJVCケンウッドのマルチアングルサービス「yourLIVE」が変えるライブ配信の常識：前編

2026.08.24 txt・構成：編集部



COPY
URL

BOOK
MARK



目次

- [制作者が選ぶ映像から、視聴者が選ぶ映像へ](#)
 - [カメラメーカーから「映像活用」を支える企業へ](#)
 - [「全員を映す」という新しい価値](#)
 - [2つの視聴スタイルで多様なコンテンツに対応](#)
 - [スマートフォンが変える配信現場のリアル](#)
 - [配信現場の働き方も変える。そして収益構造も変える](#)
 - [「YouTubeで十分」だったイベントに新しい選択肢を](#)
 - [イベント運営を支える新しい使い方と収益構造](#)
 - [配信ビジネスを継続するための仕組みとマネタイズ](#)
 - [まとめ—映像を届けるから、「選んで見る」時代へ](#)
-

制作者が選ぶ映像から、視聴者が選ぶ映像へ

ライブ配信は普及した一方で、制作手法はテレビ中継の延長線上にある。JVCケンウッドの「yourLIVE」は、複数の映像から視聴者自身が見たいアングルを選べる新しい配信サービスだ。視聴体験を変えるだけでなく、配信制作やビジネスモデルにも新たな可能性をもたらしている。

JVCケンウッドのマルチアングル配信サービス「yourLIVE」は、「見たい映像は人によって違う」という発想から生まれたサービスだ。複数のカメラ映像を同時に配信し、どの映像を見るかを視聴者自身が選択する。しかも、スマートフォンやモバイル回線を活用することで、大規模な中継設備を必要とせずに導入できる点も特徴だ。

取材を通じて見えてきたのは、yourLIVEは単なるマルチアングル配信サービスではないということだ。視聴者体験だけでなく、配信制作のコスト改善、さらにイベント時間分のPR広告枠で収益モデルそのものを変える可能性を秘めている。

カメラメーカーから「映像活用」を支える企業へ

JVCケンウッドと聞くと、JVCやビクターブランドのビデオカメラや業務用映像機器を思い浮かべる人も多いだろう。

同社は長年にわたり映像業界で培ってきた技術を活用し、新たなサービス事業へと展開している。その一つがyourLIVEだ。

同社はスポーツ分野での映像センシングやハイスピード撮影などを通じて、「撮影した映像をどのように活用するか」という領域に早くから取り組んできた。

yourLIVEの商用サービス開始は2023年4月。しかし、そのルーツは2013年頃までさかのぼる。

当時、JVCケンウッドは配信プラットフォームに対し、カメラからインターネットで映像や時刻情報を送る技術面で協力していた。その後、研究開発や実証実験を重ね、配信サービスとして再構築したのが現在のyourLIVEである。



JVCケンウッドのメディア事業部の伊藤健一氏

JVCケンウッド メディア事業部の伊藤健一氏はこう語る。

伊藤氏: 私たちはもともと映像を作る側の会社でした。カメラ事業には一区切りを付けましたが、映像に関する技術やノウハウは残っています。それを活用して、新しい映像ソリューションとして展開している取り組みの一つがyourLIVEです。

つまり、カメラを売る会社から、映像体験そのものを支える会社へ——。yourLIVEはその象徴的なサービスと言える。

「全員を映す」という新しい価値

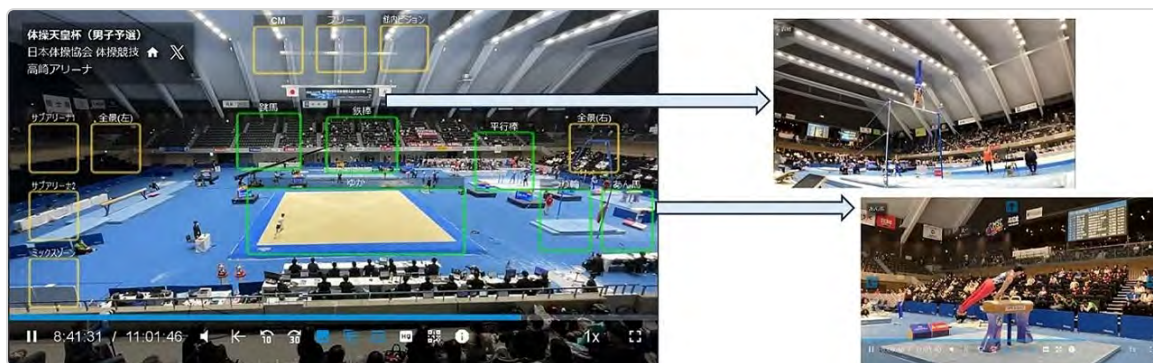
yourLIVEの最大の特徴は、「誰を映すか」「何で映すか」を決めないことにある。一般的なライブ配信では、複数のカメラ映像をスイッチャーで切り替えながら一本の映像にまとめる。そのため、画面に映るのはどうしても注目選手や人気出演者が中心になる。しかし、yourLIVEでは各カメラ映像を個別に配信し、視聴者が自由に選択できる。

例えば体操競技。会場内では床運動、跳馬、鉄棒など複数の競技が同時進行する。一つの映像ですべてを追うことは難しく、通常の中継ではどうしても有力選手中心の構成になる。一方で、全国大会に出場すること自体が、多くの選手や家族にとって大きな意味を持つ。

伊藤氏：全国大会には100人以上の選手が出場します。しかし中継に映るのはその一部です。でも、一人ひとりに応援している人がある。全員の映像を用意できれば、それぞれが見たい選手を選んで見ることができます。



事例：体操競技 第63回体操NHK杯



「yourLIVE」は、競技シーンからサブアリーナ、ミックスゾーンまで自由に視聴。複数の映像から好きなアングルを選べる、新しいスポーツ観戦体験を提供

導入事例 ③ スポーツ中継 セレクトスクリーン
yourLIVE

体操天皇杯 第78回全日本体操個人総合選手権／第63回体操NHK杯 公益財団法人日本体操協会 様

複数の演技が同時進行する体操競技で全選手の演技をライブで配信

導入背景

- 多くのメダリストが参加する日本の体操競技大会で、その高い技術を持つ、たくさんの選手の活躍を伝えるには、一般的な配信方法では設備・撮影・制作の点で実現が難しかった
- 同時進行する競技を撮影するために、大量の機材と多くのスタッフを必要としていた

**iPhoneによるリモートコントロール撮影で
現地作業を大幅に軽減！**

撮影機材としてiPhoneを13台用意し全ての競技ごとに設置。同時進行する競技を少数のスタッフでリモートコントロールしながらライブ配信を行いました。

競技を撮影するiPhoneはEthernetケーブルで接続し配信映像を安定させ、他は可搬性から構内にメッシュWi-Fiを構築。目的に応じてネットワーク環境を使い分けることで、コストを抑えながら視聴者の期待に応えるライブ配信を実現しました。

会場に設置されたiPhoneによるリモート撮影の様子
(全日本団体選手権での設定カメラ)

導入効果

- 100人以上の選手が参加する全国大会で、**すべての選手の演技を配信**
- 来場しても見ることが出来ないサブアリーナ(練習)、ミックスゾーンの映像など、**今まで伝えきれなかった魅力を伝えることができた**
- 大会4日間の**アーカイブ配信**を行ったことで、最終日に予選を見るのが可能になった
- 配信中に任意で取得したアンケートでは**98%が継続を希望**

見たいエリアを選択して全面表示

※これらの写真は同タイミングでの映像ではございません。予めご了承ください。

お客様の声

大きな大会ではTV放送が入ります。5月のNHK杯では撮影位置へ赴くことなくリモートで全てのカメラ(スマートフォン)を制御し、TV放送と区分けできたことで共存を実現できたことは、大きな一歩だと思いました。

— 日本体操協会 事務局長 守永直人 様 —

※画像をクリックして拡大

この考え方は、スマートフォン時代の視聴スタイルとも親和性が高い。私たちは日常的に、自分に関係のある情報を自分で選んでいる。SNSもニュースも動画も同じだ。それにもかかわらず、ライブ映像だけが「全員に同じものを見せる」必要があるのだろうか。yourLIVEはその問いに対し、新しい答えを提示している。

2つの視聴スタイルで多様なコンテンツに対応

yourLIVEでは大きく分けて2種類の視聴スタイルを提供している。

一つ目は「マルチスクリーン」。

複数のカメラ映像を一画面に並べて表示する方式で、イベント全体の状況を一覧できる。

駅伝であれば各中継所、陸上競技であればトラック競技やフィールド競技などを同時に確認できる。イベント会場であれば複数エリアの状況確認にも活用可能だ。



マルチスクリーンは複数のカメラアングルを自由を選択。メイン画面と同時表示や分割表示を切り替えながら、好みの視点で視聴を楽しめる
※クリックで実際の画面へ

もう一つが「セレクトスクリーン」。

視聴者自身が見たい映像を選び、メイン画面として大きく表示できる仕組みである。体操競技の種目選択や、舞台・ライブにおける"推しカメ"との相性が良い。さらに画面デザインやレイアウトも柔軟にカスタマイズできる。



セレクトスクリーンは、映像内の人物やエリアを選ぶだけで、連動した音声に切り替え。特定の演奏者の音を強調するなど、自分だけの視点と音でコンテンツを楽しめる
※クリックで実際の画面へ

例えば一般視聴者向けには基本アングルのみ、有料会員には追加カメラを提供する。あるいは出演者ごとに専用画面を用意することも可能だ。

重要なのは、映像そのものを作り直す必要がないことだ。同じ映像ソースで、視聴者ごとに異なる視聴体験を提供できる。つまりyourLIVEは単なるプレイヤーではなく、主催者や配信事業者が独自の視聴体験を設計するためのプラットフォームなのである。

スマートフォンが変える配信現場のリアル

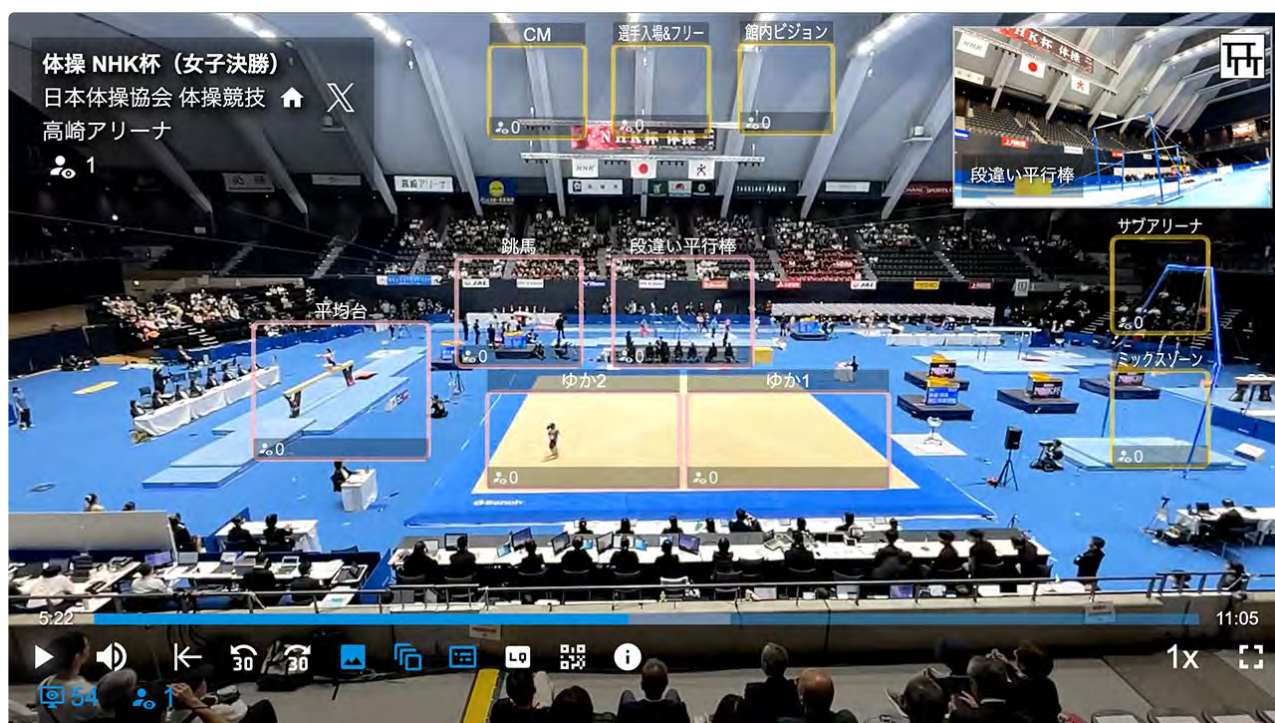
yourLIVEの大きな転機となったのが、スマートフォンだ。当初は業務用カメラやPTZカメラを使用していたが、複数地点へ設置する場合は機材搬入や電源確保、回線準備など多くの作業が必要になる。

そこでスマートフォン、三脚、モバイルバッテリー、キャリア回線やモバイルWi-Fiなどの通信回線を用意し、スマホアプリを起動するだけで映像を送出できる。

伊藤氏：競技ごとにスマートフォンを一台置けばいい。もちろん業務用カメラと比べれば画質は異なります。しかし、そのイベントを見る人の多くはスマートフォンで見る今の状況を考えると十分ではないかと考えました。

通信回線も柔軟だ。モバイル回線やWi-Fiだけでなく、有線LANやStarlinkにも対応。さらに既存の業務用カメラや自動追尾カメラもRTMPやSRTで接続できる。スマートフォンから手軽に始められ、必要に応じて業務用システムへ発展できる拡張性を備えている。

また、yourLIVE専用の機材を必要としないため、導入コストのハードルは大きく下がる。



体操「NHK杯」において、スマートフォンも撮影用カメラとして活用



4Kメモリーカードカメラレコーダーとスマートフォンをミックスして配信を実施



また、重要なのは「最高画質を目指すこと」ではなく、「誰が何のために見るか」という視点だ。yourLIVEは、4K配信も可能だが、スマートフォン視聴が中心のイベントで本当に必要なのか。技術視点の画質競争ではなく、視聴者を主役として「見たい映像を届けること」に価値を置いている。

配信現場の働き方も変える。そして収益構造も変える

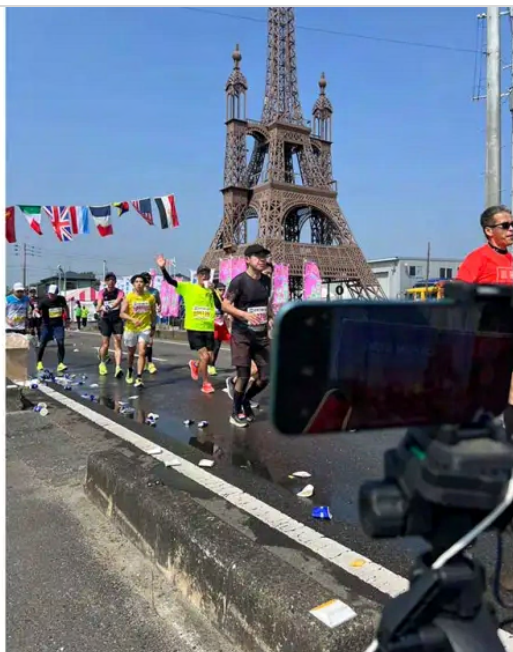
yourLIVEが変えるのは視聴体験だけではない。配信制作のワークフローにも大きな変化をもたらす。

従来のライブ配信では、カメラマンやスイッチャーなど、多くのスタッフが現場に常駐する必要があった。しかし、yourLIVEではスマートフォンを設置し、スマホアプリを設定しておけば、配信開始や停止、映像データの確認などを遠隔から行える。さらに、視聴者自身がカメラ映像を切り替えるため、制作側がすべての映像をリアルタイムでスイッチングし続ける必要もない。

伊藤氏：現場にスタッフを張り付けなくても状況を把握できます。同じ会社が複数地域の配信を同時に担当できるようになれば、これまで一案件しか受けられなかった会社でも、複数案件を並行して運営できる可能性があります。

事例:マラソン さが桜マラソン2024





導入事例 ① スポーツ中継 マルチスクリーン

さが桜マラソン2024 大会事務局（佐賀新聞社、佐賀陸上競技協会、佐賀県、佐賀市、神崎市）様



8台のスマートフォンでマラソン大会の魅力余すことなく発信

導入背景

- 従来の撮影方法では大会のコースを広くカバーすることができず、イベントの臨場感や魅力をもっと伝えたいと思っていた
- 大会主催者の撮影機材の準備や配信準備にかかる負担が課題となっていた

リモートカメラを活用し、 少人数でのライブ配信を実現！

撮影した映像データは、NTTドコモのモバイル回線（LTE、5G）を使用しインターネットを経由してセンターに集約することで、現場負担が高い作業（回線ケーブル敷設、配電など）を大きく軽減しました。
撮影はスマートフォンとモバイルバッテリー、三脚の設置のみのため、特別な知識がなくても設置が可能。また可搬性が高いため途中の撮影場所の変更にも対応することができました。



導入効果

- 先頭から最後尾まで従来に比べ**より多くのランナーの撮影に成功**
- 沿道の観客の**応援や大会の雰囲気、観光名所**など大会全体の魅力を伝えることができた
- 大会当日の視聴回数が延べ約**3万7千回を記録**。多くの視聴者に新しい視聴体験を提供することができた



「さが桜マラソン2024」での「YourLIVE」配信画面



音声実況。大会進行やマルチアングルの見方を紹介

お客様の声

大会の様子をより多くの方に見ていただくための方策を検討していたところに、マルチアングル配信システム「YourLive」のご提案をいただきました。
広範囲に渡るコースに複数の視点を立てることができ、視聴者が見たい場面を選べる取り組みが、新しいマラソンの楽しみ方として多く視聴いただきました。大会をいかに知ってもらうかが市民マラソンにとって重要なことなので、それを実現できて良かったです。

—さが桜マラソン2024 大会事務局長 名古屋電産 様—

※画像をクリックして拡大

どこにカメラを設置するか、どの映像を見せるか、どのような画面構成にするか—そうした設計は、これまで以上に重要になる。省人化というより、人の役割が「撮る」から「設計する」へ移っていくと言った方が正しいだろう。

「YouTubeで十分」だったイベントに新しい選択肢を

高品質なマルチアングル配信システムは以前から存在している。しかし、それらは放送品質を前提とした大規模システムが中心であり、地域大会や学校行事、小規模ライブなどには導入コストがネックで諦めるケースは少なくない。

yourLIVEが目指しているのは、そうしたハイエンドシステムの代替ではない。

伊藤氏: 次のイベントをYouTubeで配信するか、yourLIVEで配信するかを比較してもらえるサービス。

と伊藤氏は、その立ち位置を表現する。確かに遅延性能や画質だけを比較すれば、専用設備には及ばない部分もある。しかし、地域大会や学校行事では、リアルタイム性以上に「見たい人が見られる」ことの方が重要になるケースも多い。

一本の高品質な映像を作るのか。必要十分な品質で複数の映像を届けるのか。yourLIVEは、その新しい選択肢を提示している。

yourLIVEの特長がマッチするひとつがスポーツ競技だ。例えば体操では、競技エリアごとにスマートフォンを設置し、各種目を個別に配信している。通常のテレビ中継では、有力選手以外の演技はほとんど映らない。しかしyourLIVEでは、家族や友人が応援する選手を自由に選んで視聴できる。ライブだけではなく、大会終了後にアーカイブで複数の選手を見返す利用者も多いという。

この考え方は体操だけではない。駅伝では後方の学校がたすきをつなぐ瞬間、テニスや卓球では複数コートで同時進行する予選試合など、これまで中継では取り上げられなかったシーンにも価値がある。

yourLIVEは、ネット配信ならではの柔軟性を活かし、「映らなかった人」にも映像の入り口を用意する。それは従来のライブ中継にはなかった新しい価値と言えるだろう。

さらに注目すべきは広告枠の拡大による収益力のアップだ。さが桜マラソンの配信では、マルチアングルのひとつを広告枠にして、7時間分の情報を発信している。広告枠として販売することにより運用コストの回収、コスト削減を図ることができる。また1年間アーカイブ配信を続けるため、企業としてのメリットは大きい。

イベント運営を支える新しい使い方と収益構造

yourLIVEの用途はスポーツやライブ配信だけにとどまらない。地域イベントや音楽フェスでは、会場内の複数エリアを映像で確認し、来場者が混雑状況や進行状況を見ながら移動するための情報として活用できる。

ライブハウスを巡る音楽イベントでも、各会場の進行状況を映像で確認できるため、来場者は次に向かう会場を判断しやすくなる。

ジャンルを超えた6バンドによるガリバー・ライブサーキット!

ガリバー・ライブサーキット

Gulliver LIVE Circuit vol.38

6.15
sun
5:00→11:00pm
zero

TRUE	The GULLIVER	American Club	Globe	Sherlock Holmes	
鮫島 秀樹 Special Band	大井 貴司 Super Trio	Tokyo Funky Dolls	いとしの エリーズ	仲田 美穂 Quartet	海老原しのぶ Group
					
♪ R&B TRUE	♪ Jazz The GULLIVER	♪ Disco Soul American Club	♪ Pops Globe	♪ Gypsy Jazz Sherlock Holmes	♪ Jazz zero
					

八王子の6会場で「Gulliver Live Circuit vol.38」が開催された。複数会場で同時開催されるライブの進行状況をリアルタイムで可視化。全公演を楽しみたい来場者の移動や視聴をスマートにサポートする

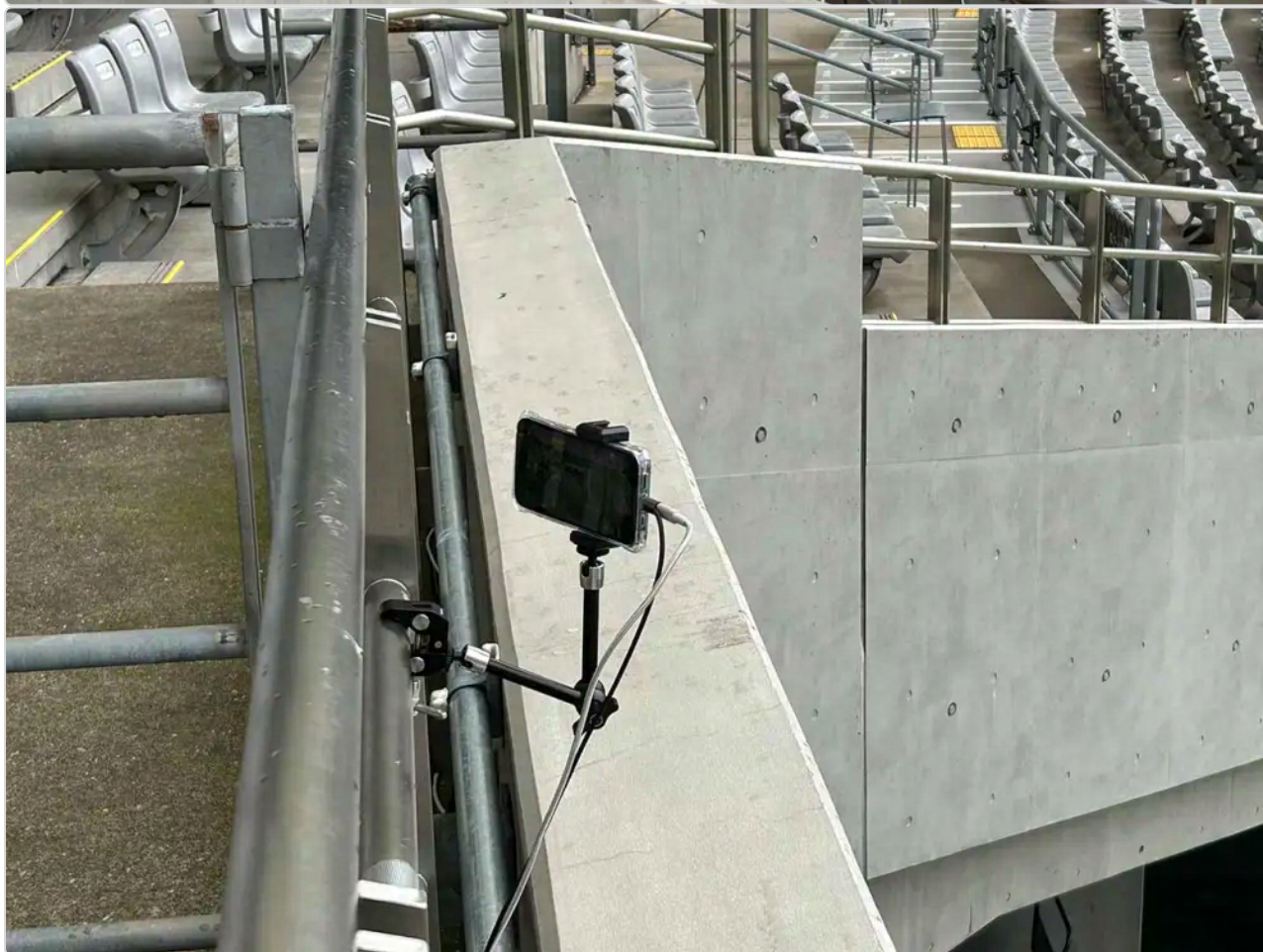
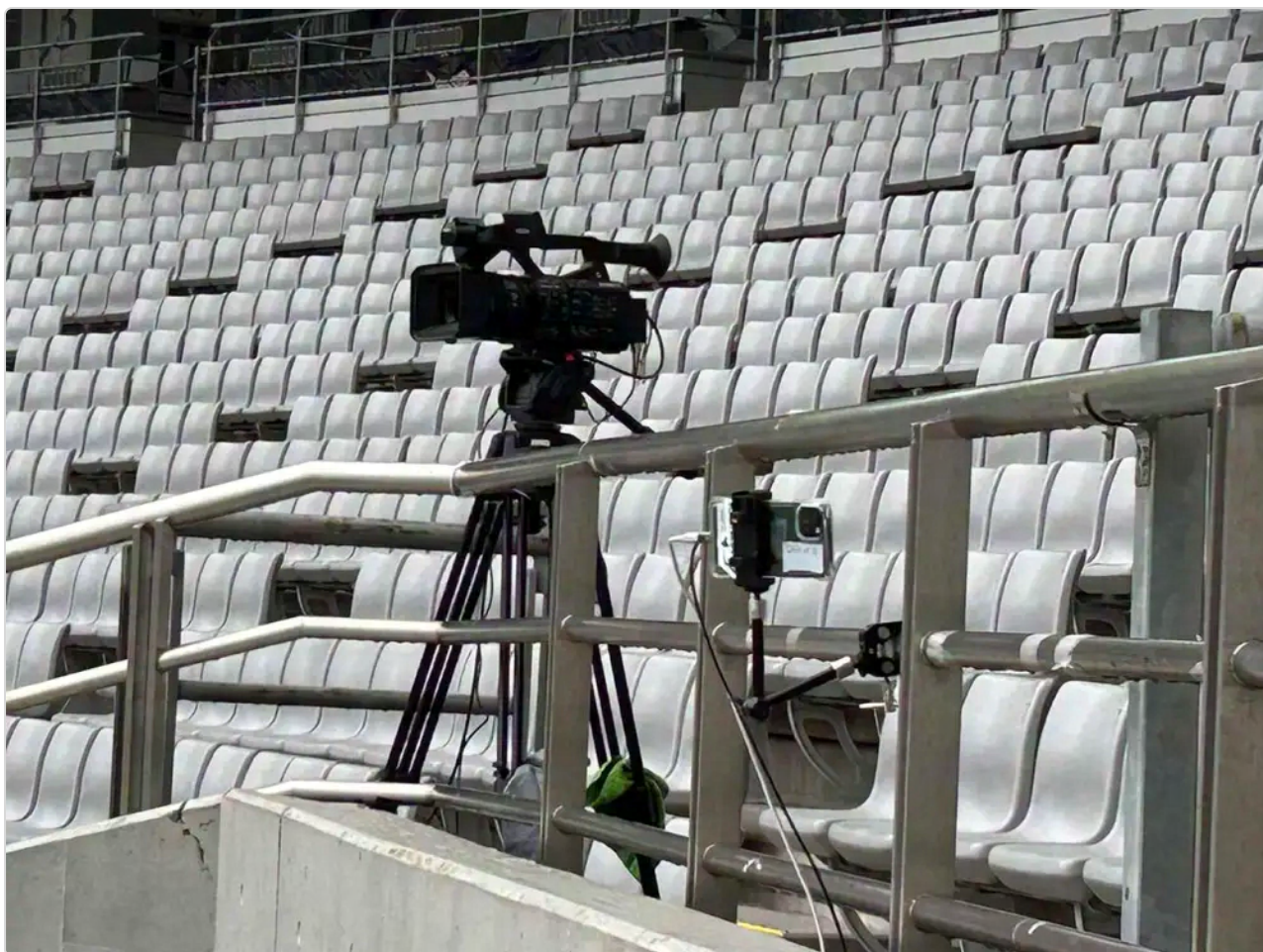
さらに運営側にとってもメリットは大きい。広いスポーツ施設では、飲食エリアやグッズ売り場、駐車場、シャトルバス乗り場など複数地点を遠隔から確認できる。混雑状況やトラブルをリアルタイムで把握できるため、イベント運営の効率化にもつながる。



2025年の「ブリヂストンレディスオープン」では、練習場やギャラリープラザ、ゲートのほか、10番から15番ティール付近の状況監視に運用された



2025年の「TOKYO ROKUTAI FES」においては、スタート・フィニッシュ地点や会場外周、ゲート入口、ステージ、飲食エリアといった広範な監視に活用



同フェスにおける観客席やグラウンド全域の安全管理を目的とした、詳細な監視体制が構築されている

配信ビジネスを継続するための仕組みとマネタイズ

地域イベントや学校行事では、「配信したい」という思いがあっても、人件費や機材費の負担から継続できないケースが少なくない。伊藤氏が繰り返し語っていたのは、配信事業者がボランティアではなく、きちんと事業として成り立つ仕組みを作りたいという考えだった。現場スタッフを減らし、一社で複数案件を担当できれば、一件あたりのコストは下げられる。さらに、出演者別アーカイブや会員限定映像など、新たな商品を生み出せる可能性も広がる。

yourLIVEが収益を保証するわけではない。しかし、「一本の映像の販売のみ」という従来のライブ配信から、「複数の視点を商品化する」という新しいビジネスモデルを実現する基盤にはなり得る。

また、映像制作の世界では、高画質・低遅延・安定性が長く追求されてきた。その価値は今後も変わらない。一方で、オンライン会議やスマートフォン配信が当たり前になった現在、視聴者が求める価値も変わりつつある。最高画質で一部の選手だけを映すのか。視聴ツールに応じた最適な画質で、すべての選手を映すのか。

大会を見たい人が本当に求めているのは、必ずしも優勝候補だけではない。家族や仲間の数分間の演技を、確実に見られることかもしれない。yourLIVEは、「映像品質とは何か」という問いに対して、新しい視点を投げかけている。

まとめ—映像を届けるから、「選んで見る」時代へ

何より印象的だったのは、「誰を映すか」という考え方そのものを変えようとしている点だ。

トップ選手だけではなく、すべての選手を。

メインステージだけではなく、複数の会場を。

一つの正解ではなく、それぞれが見たい映像を選べる体験を提供する。そこに主催者、配信側にはマネタイズの道も開かれる。

伊藤氏はyourLIVEを「道具」と表現した。その言葉どおり、このサービスは完成された答えではない。スポーツ、舞台、音楽ライブ、学校行事、地域イベント—現場のクリエイターや配信事業者がアイデアを加えることで、新たな活用方法が生まれていく余地を残している。

JVCケンウッドがyourLIVEで目指しているのは、新しい配信サービスを売ることではない。
「100人いれば100通りの"見たい"がある」という時代にふさわしい映像体験を実現するための基盤を提供することだ。

ライブ配信は今、「一本の映像を届ける」時代から、「一人ひとりが見たい映像を選ぶ」時代へと歩み始めている。さらに次回は現場での模様を交え、お伝えしたい。

▶マルチアングル配信サービスyourLIVE